

# 今年は倒伏の恐れ! 穂肥は稲姿を見て慎重に!

○葉色(群落)4.0又はSPAD値37以上なら→1回目の穂肥はパス!

○草丈80cm以上なら → 1回目の穂肥はパス!

※1回目穂肥時(出穂18日前)の生育診断

褪色程度が大きいほ場もあるので要注意!

## 1 コシヒカリの生育状況(7月20日現在)

【草丈】並 【茎数】やや少 【葉令】並 【葉色】濃い

○葉色は濃いものの、褪色が進んでいる状態。ほ場間差が大きい。

## 2 コシヒカリの出穂予想(7月20日現在)

【5月13日~15日植え】・・・8月6日

○ほ場間差が大きいので、必ず各ほ場で幼穂を確認しましょう。

※出穂予想は随時更新されます。最新の出穂予想を携帯メール稲作情報で配信しますので、最新情報を活用してください。



## 3 幼穂による穂肥時期の診断

○ほ場内の平均的な生育の場所で5本程度調べ、平均した幼穂長を基準に穂肥時期を判断してください。

幼穂長と出穂前日数

出穂前日数	24日	20日	18日	12日	10日
幼穂長(cm)	0.1	0.4	1.0	4.0~6.0	8

## 4 穂肥1回目は、草丈・葉色で施用時期・施用量を決定

【1回目穂肥時(出穂18日前)の生育診断方法】

草丈	葉色		穂肥量 (N成分 kg/10a)	[散布例①] 魚沼ロマン有機穂肥 (kg/10a)	[散布例②] 有機30魚沼ロマン穂肥 (kg/10a)
	(群落)	(SPAD値)			
75cm 未満	3.0以下	32以下	1~1.5kg	10~15kg	8~12kg
	3.5	33~36	0~0.5kg	0~5kg	0~4kg
75cm~ 80cm	3.0以下	32以下	0~0.5kg	0~5kg	0~4kg
	3.5以上	33以上	無施用	—	—

### ○ 穂肥2回目は、後期栄養維持のため確実に施用

・散布時期:出穂12~10日前(主茎幼穂長:4~8cm)

・散布量:窒素成分1.0~1.5kg/10a (魚沼ロマン有機穂肥:10~15kg/10a)

基肥一発肥料でも出穂期の葉色の低下が見込まれる場合は、穂肥を施用しましょう

※2回目の穂肥施用後も葉色が低下し、出穂後の高温が予想され、栄養凋落による品質低下が懸念される場合は、3回目の穂肥(出穂期3日前)が必要になります。

## 5 出穂3週間前から常時湛水で安全・安心な良食味・高品質米生産

## 6 カメムシ類による斑点米注意報発令・・・草刈り・防除の徹底を!

※ 穂肥診断等の詳しい資料は指導会資料(営農センター、振興局HP等)をご覧ください。携帯メール会員募集! 営農センターへお問い合わせください。